子規句碑所在一覧

1 正岡子規記念球場（上野公園内）　●台東区上野公園5-20
JR上野駅下車。公園口を出て上野動物園方面に進み、東京文化会館先を左折し、徒歩1分。野球場東側。

2 五條天神社（上野公園内）　●台東区上野公園4-17
JR上野駅下車。公園口を出て上野精養軒方面に進み、突き当り韻松亭左隣り。徒歩5分。

3 下谷神社（寄席発祥の地）　●台東区東上野3-29-8
JR上野駅下車。正面口より浅草通りを浅草方面へ徒歩5分右側。又は東京メトロ銀座線「稲荷町駅」下車、上野駅方面へ徒歩2分左側。

4 入谷鬼子母神（入谷朝顔市）　●台東区下谷1-12-16
JR鶯谷駅下車。南口より跨線橋を下り突き当りの言問通りを右折。次の信号を渡り右側100m程。徒歩6分。又は東京メトロ日比谷線「入谷駅」下車。言問通りを鶯谷駅方面へ左側1分。

5 元三島神社　●台東区根岸1-7-11
JR鶯谷駅下車。北口改札口を出て直ぐ右手の寿司屋の横を入ると直ぐ。徒歩1分。

6 笹乃雪（豆腐料理）　●台東区根岸2-15-10
JR鶯谷駅下車。北口を出て言問通りを渡り直進すると左側に「笹乃雪」がある。徒歩約3分。

7 子規庵（子規旧居）　●台東区根岸2-5-11
JR鶯谷駅北口下車。言問通りを渡り直進。「笹乃雪」に沿い左折。駐車場先を突き当り左折、直ぐ先を右折左側。徒歩約5分。

8 羽二重団子（芋坂）　●荒川区東日暮里5-54-3
JR日暮里駅下車。南口を出て右方向へ。約300m程行くと右側に「羽二重団子」がある。徒歩約4分。

9 根岸の里（根岸小学校入口）　●台東区根岸3-9-8
JR鶯谷駅下車。北口を出て言問通りを渡り直進。約50m程行った右側。根岸小学校入口横。徒歩約3分。

10 御行の松不動尊　●台東区根岸4-9-5
JR鶯谷駅下車。南口を出て左、跨線橋を下ると言問通りに出る。通りを渡り右折、左側に要伝寺。そこを左折し直進約300m。右側にある。徒歩約8分。

11 鷲神社（酉の市）　●台東区千束3-18-7
東京メトロ日比谷線「三ノ輪駅」下車。上野寄り改札口より国際通りへ出る。浅草方面へ直進左側、徒歩約10分。

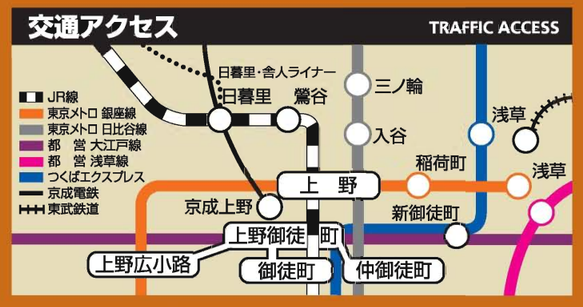
12 山谷堀公園（吉原への船路）　●台東区東浅草1-4-2
松屋前から都バス南千住行に乗り「今戸」下車。東浅草1丁目信号を左折、山谷堀橋を右折して直ぐ。バス停より5分。

13 隅田公園（竹屋の渡し）　●台東区浅草7-1（待乳山聖天斜向）
東京メトロ銀座線又は都営浅草線、東武伊勢崎線「浅草駅」下車。松屋と隅田川の間の道を桜橋方面に向う。言問通りを越え約300m先左側。徒歩約15分。

14 浅草寺（浅草観音）　●台東区浅草2-7-3
東京メトロ銀座線又は都営浅草線、東武伊勢崎線「浅草駅」下車。浅草寺本堂の左奥五重塔の先の塀の中。徒歩約8分。

15 子規短歌碑（駒形橋西詰）
東京メトロ銀座線又は都営浅草線、東武伊勢崎線「浅草駅」下車。江戸通りを浅草橋方面に徒歩約5分。

交通アクセス TRAFFIC ACCESS



発行 台東区観光課　〒110-8615 東京都台東区東上野4-5-6
TEL.03-5246-1111（代表）
http://taitonavi.jp/

協力／台東区俳句人連盟
財団法人 子規庵保存会
松山市立子規記念博物館
2014.3-5,000

正岡子規について

正岡子規が陸羯南（くがかつなん）の世話で東京下谷上根岸88番地（羯南の隣）に越して来たのは、明治25年2月のことでした。子規はこの前年、大学を中退して俳句研究に専念することを羯南に告げています。子規が松山から上京したおり、羯南は洋行前の親友・加藤拓川から「甥をよろしく頼む」と子規を託されていました。以来、子規とは10年近くの親交を結んでいたのです。はじめ、大学をやめることについて反対した羯南は、やがてその熱心な、揺るぎない子規の態度に理解をしめしました。そして、病弱な子規の身体を気づかい、家族との同居をすすめます。11月、松山から母と妹を呼び寄せて母子三人、根岸での生活が始まりました。

12月、子規は羯南の経営する日本新聞社に入社しました。新聞「日本」には、入社前から、俳論、紀行文などを連載していたのでした。翌年、奥羽地方を旅したときの紀行文「はてしらずの記」もこの「日本」に連載されました。

明治27年2月、絵入り新聞「小日本」の編集責任者に抜擢された子規は、これを機に一家で羯南の東隣上根岸82番地（現在の子規庵所在地・根岸2-5-11）に移りました。「小日本」は半年ばかりで廃刊しましたが、子規はこのとき挿絵を画いた中村不折に出会い、後に写生ついての大きな示唆を受けています。

新聞「日本」に復帰した子規は明治28年4月、周囲の反対を押し切って日清戦争の従軍記者として大陸に渡ります。無理がたたって、帰国途次の船中で喀血するなど子規の身体は急激に衰えていきました。明治29年には脊椎カリエスを告知され病床に臥すようになりました。記者として各地を取材することはできなくなってしまいましたが、「日本」を発表の場にして子規は精力的に書き続けました。この年の随筆「松蘿玉液」には、学生時代に熱中していたベースボールについての記述があります。野球という訳語はまだありませんでしたが、子規は自分の名をもじって、野球（ノボール）とルビをふり、友人の手紙に記しています。投者（ピッチャー）、攫者（キャッチャー）、打者（ストライカー）、走者（ラナー）、正球（フエアボール）、飛球（フライボール）、満基（フルベース）、廻了（ホームイン）などは子規の翻訳なのです。

明治23年 ユニホーム姿の子規

明治31年の子規

明治30年に雑誌「ほとゝぎす」が松山で子規の友人により刊行されました。子規はこれによって更に旺盛な文学活動を広げていきます。そして1年後には発行所を東京に移して誌名を「ホトトギス」と改めました。ここに掲載された「小園の記」の中から抄出します。

「ごてごてと草花植えし小庭かな
病いよいよつのりて足立たず門を出づる能はざるに至りし今小園は余が天地にして草花は余が唯一の詩料となりぬ」

外出が自由にならない子規は、縁側に出て庭の草花を眺め、詩に表現できるものを探しました。

病間の障子がガラス戸に替わったのは明治32年12月のことでした。「ホトトギス」の友人からの贈り物でした。このころ、ガラスはまだ珍しく、輸入品で高価なため、子規の給料ではもとめることができなかったのです。のちに記された随筆から、このときの子規のよろこびがあふれるばかりに伝わってきます。

「果たしてあたたかい。果たして見える。見えるも、見えるも、庭の木も見える。杉垣も見える物干し竿も見える、物干し竿に足袋のぶらさげてあるのも見え、其下の枯菊、水仙、小松菜の二葉に霜の置りて居るのも見える…」（明治33年「新年雑記」）

写生を唱道していた子規にとって物を見るということはとても大切なことだったのです。子規のよろこびは、また、友人たちのよろこびでもありました。子規の病床には、夏目漱石、森鷗外、高浜虚子、河東碧梧桐、伊藤左千夫、長塚節等々明治の文学を彩る多くの人々が集まり、句会、歌会、文章の会などが開かれ、小さな家は熱気に満ち溢れていました。

明治35年9月19日、子規は世を去りました。子規没後、母と妹は子規旧居を守り、根岸の地を離れることはありませんでした。

寄稿　財団法人 子規庵保存会

（表紙及び上記写真2点は松山市立子規記念博物館所蔵）

根岸 子規庵

子規庵は、旧前田侯の下屋敷の御家人用二軒長屋といわれており、借家として子規没後も子規庵には母と妹が居住していました。前田家より子規庵維持保存会が土地建物を購入後、老朽化と関東大震災の影響により昭和元年に解体重修工事を行いましたが、昭和20年4月14日の空襲により子規庵は焼失、幸い昭和2年に完成した土蔵（子規文庫）は残り貴重な遺品が後世に残されました。現在の子規庵は昭和25年高弟等の努力で再建され、昭和27年東京都文化史蹟、昭和35年東京都文化財に指定されています。現在は、昭和3年に子規庵維持保存会が財団法人子規庵保存会としての認可を受け、維持保存と公開運営をしています。

財団法人 子規庵保存会
東京都台東区根岸2-5-11　TEL.03-3876-8218

●公 開 日／月曜日を除く毎日（月曜日が祝日に重なる場合は翌日。夏季・冬季休庵あり）
●公開時間／午前10時30分～午後4時（正午から午後1時まで昼休憩あり）
●イベント／5月「若葉の子規庵」　9月「糸瓜忌」
11月「東京文化財ウィーク」　12月「蕪村忌」他

ようこそたいとうへ

台東ぶらり散歩

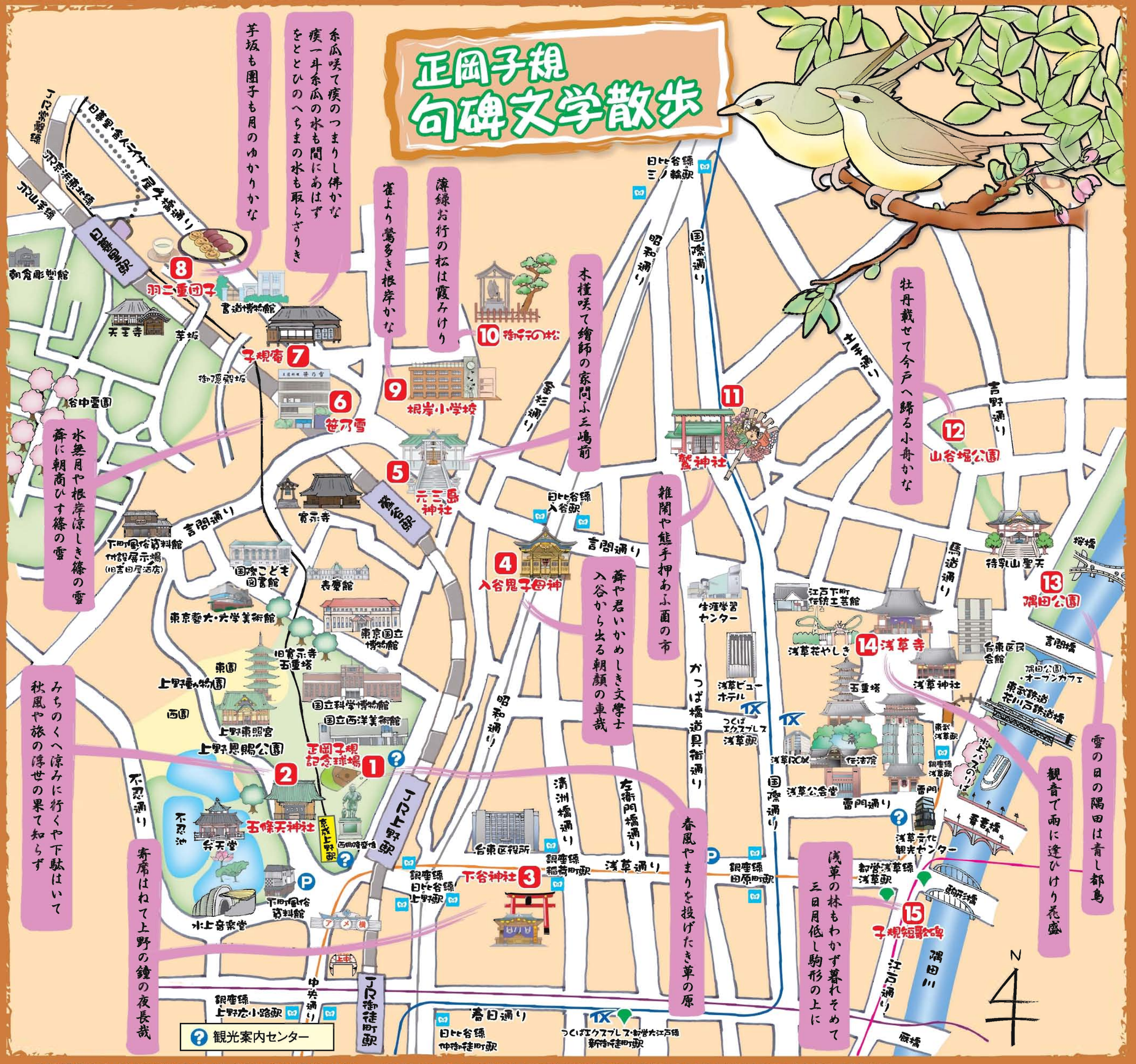
正岡子規ゆかりの地（句碑）を訪れる

其の六

正岡子規画「酉の市の於多福」（「玩具帖」より）

台東区

正岡子規 句碑文学散歩



1 正岡子規記念球場（上野公園内）
春風やまりを投げたき草の原
【説明】明治二十三年（一八九〇）、野球好きの子規は、大学予備門の仲間と上野公園の空地でベースボール大会を行っていました。その頃に詠んだ句。

2 五條天神社（上野公園内）
みちのくへ涼みに行くや下駄はいて
秋風や旅の浮世の果て知らず
【説明】明治二十六年（一八九三）、果て知らずの旅発ちに詠んだ句。同年九月に東京へ戻り旅の感慨を書いたのが旅行記「はて知らずの記」です。

3 下谷神社（寄席発祥の地）
寄席はねて上野の鐘の夜長哉
【説明】今から二百年程前に江戸で最初に寄席が催された地で、境内には「寄席発祥の地」の石碑が子規句碑と並んで建っています。

4 入谷鬼子母神（入谷朝顔市）
蓑や君いかめしき文學士
入谷から出る朝顔の車哉
【説明】江戸時代から有名な入谷の「あさがお市」を彷彿させる句であり、夏目漱石との交流がうかがえる句です。

5 元三島神社（根岸名所ノ内）
木槿咲て繪師の家問ふ三嶋前
【説明】愛媛県大三島にこの神社の総社があり、そのゆかりから元三島神社に松山俳句協会から子規没後百年記念として寄贈建立された句碑です。

8 笹乃雪（豆腐料理）
水無月や根岸涼しき篠の雪
蓑に朝商ひす篠の雪
【説明】この句碑は子規の直筆です。笹乃雪は子規庵の近くにあったので子規はよく利用していました。

7 子規庵（子規旧居）
糸瓜咲て痰のつまりし佛かな
痰一斗糸瓜の水も間にあはず
をととひのへちまの水も取らざりき
【説明】絶筆三句 ― 明治三十五年（一九〇二）九月十八日亡くなる前日に、子規が自筆で渾身の力をふりしぼってしたためた辞世の句。生涯の代表句でもあります。

8 羽二重団子（芋坂）
芋坂も團子も月のゆかりかな
【説明】上野の山からこの芋坂を下ると根岸へと通じる道があり、子規もここの団子を好んで食べたといわれています。

9 根岸の里（根岸小学校入口）
雁多き根岸かな
【説明】江戸末期から明治にかけて、近くの梅屋敷で雁の啼き合わせが行われました。当時は人家も少なく「雁の里」と呼ばれていたそうです。

10 御行の松不動尊
薄縁お行の松は霞みけり
【説明】大正時代までここに大きな松があり、どこからも良く見えたといわれています。子規が見た明治期の様子が伺える句です。現在の松は三代目。

11 鷲神社（酉の市）
雑閙や熊手押あふ酉の市
【説明】江戸時代より鷲神社の「酉の市」は有名で、活気に溢れる市の様子が目に浮かびます。

12 山谷堀公園（吉原への舟路）
牡丹載せて今戸へ歸る小舟かな
【説明】江戸時代に新吉原が出来てから一段と賑わいを増して、荷物や客を載せて往来に忙しい堀割風景を詠んだものです。

13 隅田公園（竹屋の渡し）
雪の日の隅田は青し都鳥
【説明】隅田公園の北側の端に、大正時代まで「竹屋の渡し」と呼ばれる渡船場がありました。近くにある待乳山聖天からの眺めを詠んだものと思われます。

14 浅草寺（浅草観音）
観音で雨に逢ひけり花盛
【説明】浅草寺（観音様）はいつでも参詣人が多いですが、子規が参詣した頃は、花も盛んに咲き誇っていたといわれています。

15 子規短歌碑（駒形橋西詰）
浅草の林もわかず暮れそめて
三日月低し駒形の上に
【説明】ここは古来、交通の要地で「駒形の渡し」のあったところです。この歌から明治の時代の景況が偲ばれます。

史跡が保管されている寺院境内等に入る場合は、必ず管理者の許可を得てください。 ※掲載されている内容、名称等はすべて発行当時のものです。現在とは異なる場合がありますので、あらかじめご了承ください。